

所属・資格 英文学科・教授

申請者氏名 隅田 朗彦

研究課題		英語ライティングパフォーマンス向上のための効果的な学習法・指導法
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>目的：第二言語習得理論に基づく、効果的なライティング・タスクおよびフィードバックの方法論を探る。</p> <p>概要：ライティングに象徴される第二言語発表活動において、多くの面で正確に話す、正確に書くということが重要視されてきたが、英語のグローバル化および社会のグローバル化を視野に入れた場合、重点はまず、流暢さに置かれるべきであるという見解が強く押し出されている。流暢さの向上を視野に入れた効果的なライティング学習・指導により、バランスの取れた英語学習者を育成するべく、効果的な、可能な限り4技能統合型のパフォーマンス・タスク、およびタスクに対応したフィードバックの方法論についての可能性を探る。</p>
	研究の結果	<p>英文産出の流暢さを向上させる目的で、タスクに対する肯定的な動機づけを保ちながら、作文指導法を実践する中でデータの収集とその分析を行った。これまでは正確なライティングを目的とした実践を行ってきたが、今回は4技能を統合する目的に沿った実践から得られる知見を追求し分析を行った。</p> <p>同時並行で、高等学校英語検定教科書及び指導書の執筆を行った。高等学校3年生用の「論理・表現Ⅲ」教科書の編著委員として主にライティング及びプレゼンテーションのレッスンを担当し、特に流暢さの向上を目指した教材への応用を念頭に教材を作成した。また、すでに検定を通過している高等学校2年生用の検定教科書の指導書執筆を行なった。</p>
	研究の考察・反省	<p>従来の所謂添削とは異なる英語ライティング・フィードバック方法を実践した昨年度および今年度のデータ分析から、添削に代わる英作文指導の可能性が発見されつつある。今年度に新たに担当した科目群の実践、他学部の採用に関わる論文審査、附属中高教員採用に関わる作問その他、自学部の普段の校務に関連しない業務も多く、データ分析の完了に困難があった。来年度はその分析結果の整理と論文としての研究成果を残すことを主眼に置きたい。さらに、高等学校の英語検定教科書及び指導書の執筆は、ライティング研究の成果を取り入れ、次の学年用へと続けて行う。また、既刊教科書の改訂にも着手される予定である。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>口頭発表（学会研究発表ではないが日頃の研究活動の一環としてのプロダクト）： 「文理学部 新学習指導要領に関する勉強会」での「外国語」に関する発表, 2022年10月13日/文理学部内.学会研究発表は発表内容、準備、開催日、開催方法との折り合いがつかずに断念した。</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>研究成果物： 高等学校英語検定教科書「論理・表現Ⅱ」（東京書籍） 指導書, 2023年1月 高等学校英語検定教科書「論理・表現Ⅲ」（東京書籍）（令和5年度中に発行・採択予定）</p>	